

【ル】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				種別	コメント
1 ルサ (羅臼町)	川	ルエサンイ *ルエサニ	ru-e-san-i	道・そこで・浜の方に出る(下る) ・所 坂	この川を上り、知床半島の山の一番低い所を越えると、斜里町側のルシャ川で、この両川の筋が、根室側と斜里側の間の古くからの通路だった。	山田	A	
2 ルサン 留産 (喜茂別町)	地区	ルオサンイ *ルオサニ	ru-o-san-i	路の下り口 道・そこで・浜の方(大川端の方) へ出る・所 坂	松浦図で見ると尻別川の南岸の方に「ルウサン」と書いてある。ルオサニを略して呼んだ言葉であって、そこから留産の地名が出た。南の方から来た旧道が、尻別岳の西裾の台地を越えてそこに下っていたからその名があったものらしい。	永田 山田	A	
3 ルシャ (斜里町)	川	ルエサンイ *ルエサニ	ru-e-san-i	道・そこで・浜の方に出る(下る) ・所 坂	この山向こうの根室海峡側にも同名のルサ川があり、この二つのルサ(坂)川の水源は半島の一番低所で、古くからの交通路であった。	山田	A	
4 ルスツ 留寿都 (留寿都村)	村	ルスツ	ru-sut	道・の根もと	ル( ru )は道のことであるが、地名に使われるのは意識された交通路で、たいていは山越え道である。当時は、尻別岳の西側の裾の高台を越えて尻別川筋に出るのが道筋であり、この山越え道の北側の根もとが留産で、南側の根もと(坂道の下)が留寿都であった。	山田	A	
5 ルハシハ 留辺蘂 (留辺蘂町)	町 山岳	ルペシペ	{ ru-pes-pe }	峠道沢 {道・に沿って下る・もの(川)}	パナワルベシペ(現称東無加川)とペナワルベシペ(現称大久保川)の二川が北から並流して無加川に入っており、どちらを溯っても山越えすれば佐呂間別川の源流に入れる。現在は東無加川筋の方を佐呂間街道が通っている。そのルペシペから留辺蘂の地名が出た。	山田	A	
6 ルベシベツ (広尾町)	地区	ルベシペツ	{ ru-pes-pet }	道が・下る・川 峠道の川	東蝦夷日誌は「昔し是よりピタタヌンケへ雪道有しと云り」と書いた。ただし、昔は海崖の山腹を上下して、大変な思いで通り、大難所とされていた。寛政年間近藤重蔵が通辞や土地のアイヌと共に川沿いに道を作ったのは有名な話である。今でも川崖の所に古い棧道が残っていた。	山田	A	
7 ルモイ 留萌 (留萌市)	市 川 駅	ルルモオツペ	rur-mo-ot-pe	潮の静に入る所 潮汐が ・静か・でいつもある・もの(川)	満潮の時、この川へ潮が入るため。	上原 山田	B	上原解が最も自然な形と思われる。 ? - ?
		ルルモペ	{ rur-mo-pe }	静潮水 {海の潮・静かな・もの}	この川は潮汐溯ること数里におよぶため水流が遅かったため。 {文法的には mo の後には-p が付くべき。}	永田		
		ルルパモイ	{ rur-pa-moy }	海・の上手・の湾	-	駅名		
8 ルロチ 瑠椽 (興部町)	川	ルルオツイ *ルロチ	rur-ot-i rur-oci	潮上る川 海水が・いっぱいある・もの(川)	潮が川に入るため、川水に塩気があり、飲むに堪えなかったため。 川尻がごく緩傾斜なので、満潮時に海水が入って来る川という意味でこの名がついた。	永田 山田	B	-

【レ】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				確バ	コメント
1 レイサクハツ 礼作別 (豊頃町)	地区	レサクペツ	re-sak-pet	名・が無い・川	レーサクという地名は道内の所々にある。明治の測量時代には、土地のアイヌに地名を教わって記入した。小さい川には時には名のないものもあり、和人の測量者がそんな川で名を聞くとレサクペツとか、レサクナイと答え、和人の方では、それを川名として記入した。それがこの名のもとだという。	山田	B	-
2 レウケ 礼受 (留萌市)	地区 駅	レウケフ	rewke-p	曲りたる所 {曲がっている・もの}	岬を出て、曲っている所に名付く。 5 万分図で見ると直線の海岸に見えたが、行って見ると、やはり若干カーブを描いている場所だった。	永田 山田	A	
3 レキフネ 歴舟 (大樹町)	川	ペルプネイ	{ pe-rupne-i }	大水川 水・大きい・もの	この川は、南風が吹く時は晴雨に関係なく、にわかには大水が流れ下る。 今でも風が吹くと、山の木の葉の水が落ちたりして水量が急増する不思議な川だという。ペルプネに歴舟と字を当て「へるふね」と呼んでいたが、読みにくいたので、「れきふね」というようになった。	永田 山田	A	
4 レブン 礼文 (羅臼町)	地区	レブンシララ *レブイシララ	repun-sirar repuy-sirar	海岩 沖に出ている・岩	「レブイ」は「レブン」と同じ海に在るの意味。 repun-sirar を続けて呼べば n が後の s に引きつられて、y のようになり、永田氏の書いた形になるのであった。 {実際にこの海岸は海中に磯があって潮が引くと現れるところだという。}	永田 山田	B	-
5 レブン 礼文 (礼文町)	町 山岳 島	レブンシリ *レブイシリ	repun-sir repuy-sir	沖の・島	利尻島の先の海にあるからであろう。また利尻の方はシリ(島)が残っているのに礼文の方ではそれが省かれて現称されているのは、字を当てると長くなるからだったのであろうか。	山田	A	
6 レブンケ 礼文華 (豊浦町)	地区 川 山岳 峠	レブンケフ	{ repun-ke-p } ----- rep-un-kep ----- -	崩れたる崎 沖の(方へ)・削る・もの(断崖) ----- 沖へ流れ出る所{?} ----- 沖へ突きでている・所{?}	他地でも断崖をケ(削る)でいうことがある。大岸のすぐ西の岬の名から出た名らしい。 ----- 何物でも、海に落すと皆沖へ流れ出るため。 ----- -	上原 山田 ----- 永田 ----- 駅名	B	- 上原解が最も自然な形と思われる。 ? ? ? -

【ロ】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
1 ロウネナイ 朗根内 (美瑛町)	地区	ラウネナイ	rawne-nay	深い・川	諸地にラウネナイがあり、従来は深い川と訳されて来たが、行って見ると殆んどが水の深い川ではない。多くは両側が高い、つまり低い沢の中の小川で、「低い所である」ぐらいの意味ではないかと思って来たが、ここは片側が山である小川でどうもはっきりしない。 {水源部はV字の深い谷だという。}	知里 山田	C	-
2 ルクシナイ 六志内 (天塩町)	地区 川	ルクシナイ	ru-kus-nay	道が・通っている・沢	この川をさかのぼって峠を越えると、少し川上の雄信内に出る。天塩川の最下流は大きく屈曲しているので、この峠越えをするのが上流への近道である。	山田	A	
3 ルクシナイ 六志内 (古平町)	地区 川	ルオクシナイ	ru-o-kus-nay	路を流る川{?}	オは乗る義。	永田	A	?? 山田解の方が自然な形と思われる。
		ルクシナイ	ru-kus-nay	道が・通っている・川	永田氏はルオクシナイと書いたが、これはルクシナイと訳すべきだろう。現在も、古平から古平川を上り、六志内川筋を溯って山越えし、神恵内に出るのが積丹半島を横断する大切な交通路になっている。	山田		

【ワ】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
1 ワカサクナイ 稚咲内 (豊富町)	地区	ワッカサクナイ	wakka-sak-nay	水なき沢	この川の水は鉄気強くて飲む事がではなかったため。	上原	A	諸説とも同一趣旨と思われる。
				水無沢	ここの所は水がなかったため。	松浦		
				飲み水・がない・川	昔の駅通のあった所は今の市街から約2キロ北で、そこが元来の稚咲内らしい。行って見ると川が流れているが、鉄錆色のやち水で、飲めたものでない。	山田		
2 ワカチャラセ 分遣瀬 (釧路町)	地区	ワッカチャラセ	wakka-carse	水が・ちゃらちゃら(崖を滑り落ちる)	明治30年5万分図にはワッカチャラセと書いている。	山田	B	-
3 ワコト 和琴 (弟子屈町)	半島 温泉	オヤコッ	oya-kot	外の地面 {ほかの・くぼみ}	湖中に差し出た岬上の地面をいう。	永田	B	?  知里解の方が自然な形と思われる。
			o-ya-kot	尻が・陸地に・くっついている	松浦氏久摺日誌ではヲヤコツモシリと書かれた。それだと「尻が・陸地に・くっついている・島」と訳するのが自然のようである。なお和琴半島という名は、詩人大町桂月がこの地に遊んだ時に命名したのだという。アイヌ語名にちなんで佳字を当てたものらしい。	知里 山田		

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
4 ワシハツ 鷺別 (登別市)	地区 駅 山岳 岬	ハシペツ	has-pet	小柴の・川	この川尻で崖に流木が寄るためという。	上原	C	- どちらとも特定しがたい。
				柴・川	-	永田		
		チウアシペツ *チワシペツ	ciw-as-pet	波・立つ・川	これの上略形か。	知里		
5 ワッカ (常呂町)	地区	ワッカオイ	wakka-o-i	飲み水が・ある・所	昔はこの海中道が北見海岸の東西交通路であったが、大部分が狭い砂丘地帯で飲み水が無い土地であったので、途中に飲み水のある場所がワッカオイと呼ばれ、それがワッカと略され付近一帯の広地名にもなったものらしい。	山田	B	-
6 ワッカオイ 若生 (伊達市)	地区	ワッカオイ	wakka-o-i	水所 水・ある・所	清水の湧く所である。 付近の農家で聞くと少し山側で水が湧いて流れており、この辺の農家は飲み水も風呂の水もここから汲む外ないのだとのこと。飲んだら実にうまかった。	永田 山田	A	
7 ワッカナイ 稚内 (稚内市)	市 駅	ヤムワッカナイ	yam-wakka-nay	冷たい・水(飲み水)の・川	この付近は水のよくなかった所だそうで、そこによい水の川があったので付けられた名であろう。旧図を見るとフシコ・ヤムワッカナイの所に小川が書かれており、これが元来のヤムワッカナイだったのであろう。だいたい港1丁目の辺だったらしい。	山田	B	-
8 ワッサム 和寒 (和寒町)	町 駅 山岳 峠	ワッサム	wat-sam = at-sam	ニレ樹 <sup>カタワラ</sup> の傍	アツ・ニ(おひょうにれの木)の傍と解したのもの。旧図には剣淵川東支流(現在の名でいえば「六線川」)にワッサムと記してあり、ここが和寒の名の発祥地かと思われる。	永田 山田	B	-
9 ワツツ 輪厚 (北広島市)	地区 川	ウッチナイ	utci-nay	脇川 {?}	谷地川にて本流の脇に注入す。	永田	C	? -
		ウツナイ	ut-nay	肋・川	輪厚川は島松川に注いでいる。その辺は昔はたぶん沼沢地で、そこに横から入っていたのでこの名がついたものか。ウツナイは略して単にウツと呼ばれたことが多く、そのウツから輪厚に訛ったものらしい。	山田		
10 ワテンハツ 和天別 (白糠町)	地区 川	ウワツテペツ	uwatte-pet	連枝川 多くある・川	「ウワツテ」は5指を開いた形の事。この川には支流が多かったため。 「uwatte」は「u-at-te お互を・群がら・せる」で、「多くある」の意味。	永田 知里	B	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考		
		カナ表記	ローマ字表記				確定	コメント	
11 リニシ 輪西 (室蘭市)	地区 駅	ワネウシイ *ワネウシ	{ wa?-ne-us-i }	(入江が)輪?・になっている・所	元来の輪西は北岸の本輪西の地で、そこが地名発生地である。本輪西の所で国道が半円を描いているのが昔の入江の海岸線であり、ワヌシのような形で呼ばれていた土地である。語源については諸説あるが、はっきりしない。	山田	C	?	-
		マネウシイ *マネウシ	{ ma-ne-us-i }	潤・になっている・所				-	
		ハルウシイ *ハルウシ	{ haru-us-i }	食料・群在する・所				-	
12 ワラビ 蕨岱 (長万部町)	地区 駅	ワルンペフル	warunpe-hur	ワラビ・坂	ワラビのことを、アイヌ語でもワランビ、ワルンベのように呼んだ。日本語伝来の言葉だったか?	永田 山田	C	-	